

氏 名	小寺 利美
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 6 8 号
学位授与年月日	平成25年9月18日
学位論文題目	看護師長の支援が看護師の専門職的自律性の形成に 及ぼす影響

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	173	(ふりがな) 氏 名	こてらとしみ 小寺利美
修士論文題目	看護師長の支援が看護師の専門職的自律性の形成に及ぼす影響		
<p>【目的】 専門職的自律性の形成に看護師長の支援がどのように影響しているのかを明らかにすることである。</p> <p>【方法】 近畿地区 200 床以上の病院を対象として無作為に抽出した 92 施設に調査協力の依頼書を郵送した。調査協力同意の得られた 17 施設に調査票を配布し、回収は郵送法とした。回答の郵送をもって同意を得たこととした。 調査票内容：基本属性（年齢、性別、看護師経験年数等）と「看護師の自律性測定尺度」（菊池ら, 1997a）、「上司サポート」（小牧ら, 1993）、「看護管理者との関わり」（伊藤ら, 2012）の 3 つの尺度を使用して構成した。 データ分析：基本属性は、記述統計を算出した。自律性尺度の合計点を低得点群と高得点群の 2 群に分け、離散量は χ^2 検定、連続量は t 検定を行った（有意水準 5%）。また、自律性尺度の合計点および下位項目得点による 2 変量の中央値の差の検定には Mann-Whitney の U 検定、3 変量以上の検定には、Kruskal Wallis 検定とし、自律性尺度の合計点が高得点群であることに関連する要因は、ロジスティック回帰分析とした。データ分析は、統計解析パッケージソフト SPSS20.0 を使用した。</p> <p>【結果】 対象者 997 名、調査票の回収数は 374 名（回収率 37.5%）、最終有効回答は 298 名（有効回答率 79.7%）だった。 自律性尺度の合計点の高得点群・低得点群ともに、基本属性における有意はみられなかった。一方、自律性尺度の項目では、「認知能力」は性別、「実践能力」は子供の有無、「自立的判断能力」は職場での役割の有無による有意な差がみられた。 また、上司サポート第 1～4 四分位の 4 群間比較では、専門職的自律性の下位項目すべてに有意差がみられた。看護管理者との関わり第 1～4 四分位の 4 群間比較では、「実践能力」、「具体的判断能力」、「自律性尺度の合計点」に有意差がみられた。ロジスティック回帰分析においては、自律性高得点群には、上司サポートが有意に影響を与えていた。</p> <p>【考察】 役割を付与されることは、自己に対する期待を知覚するだけではなく、その役割に付随する裁量を与えられることでもある。この裁量を行使する責任を自覚することで「自立的判断能力」が向上すると考えられる。また、専門職的自律性と上司サポートとの関係では、看護師長は支援者として存在することよりも、具体的なサポート行為そのものが、看護師の専門職的自律性形成に重要な意味をもつことが示唆された。そして、看護師長の関わりとの関係においては、看護師長が看護師自身の期待に応じた行動をとることで、相互の理解や信頼関係が形成され、専門職的自律性に効果的な影響を与えていたのではないかと考える。</p> <p>【総括】 本研究では、看護師の専門職的自律性能力へは「看護管理者との関わり」、「上司サポート」である看護師長の態度や行動、支援の影響が明らかになった。看護師長は、看護師が管理者に期待することを踏まえ、具体的指示と行動を示すことで看護師の専門職的自律性を向上させ、質の高いケアの提供に繋げることができるのではないかと考える。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。